

## 送辞



冬の寒さも和らぎ、暖かい春の日差しを感じる季節となりました。

本日、晴れて、この思い出の詰まった津幡中学校を旅立たれる卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

先輩方との日々を振り返ってみると、部活動や行事などで先輩方が私たちを率先して引っ張ってくださっていた姿が思い出されます。二年前、入学したばかりの私にとって、年齢が一つしか変わらないはずの先輩方がとても大きく感じられました。

私が先輩方を最初に身近に感じることはできたのは部活動でした。不安と緊張を感じていた入部当初から、私たちのことを常に気にかけて、優しく声をかけてくださいました。先輩方の、「県大会優勝」という目標に向かって真剣に日々の練習に取り組む姿や、声を掛け合いながら、チームをまとめる姿、試合になると、全員が一つのボールをしっかりと見つめ、最後まで集中して戦う姿は、とても輝いていて、私たちの誇りであり、憧れの存在でもありました。三年生が引退したときは、先輩方のように、これから自分たちがやっていけるのかと不安に思うこともありました。ですが、先輩方が言葉や態度で教えてくださったことを思い出し、先輩方を超えることを目標として部員みんなで頑張っています。これからも私たちのことを応援してください。

部活動以外で、多くの先輩方と関わることができたのは、九月に行われた運動会でした。団長・副団長を中心に、三年生全員で各団を盛り上げてくださいました。特に、団練習では、私たち一、二年生に対し、優しく丁寧に、そして、熱く、時にはユーモアを交えて場を和ませながら指導してくださいました。そのおかげで、本番当日のアピールタイムでは、気持ちの良い青空のもと、全員が全力で楽しみ、息の合ったダンスを披露することができました。そして、各団の一体感を感じた瞬間でもありました。また、みんなで切磋琢磨しながら競技に取り組む姿や、団の仲間を懸命に応援する姿はとても格好良く、その姿が今でも鮮明によみがえります。まさに「力戦奮闘～一瞬を全力で～」のスローガンにふさわしい姿でした。

そして、先輩方の「本気」の姿を見ることができたのは、十月に行われた合唱コンクールでした。一人一人の声が一つのハーモニーとなった歌声に、とても迫力を感じ、鳥肌がたつほどでした。本番までの練習時間は同じはずなのに、私たちとは比べ物にならない声量、歌に込められた思い、きれいな音の重なりに心が奪われ、「来年は自分たちも、先輩方のようにホール全体に迫力のある美しい歌声を響かせ、聴く人を感動させたい！本気で取り組みたい！」と新たな目標をもつことができました。

こうして振り返って見ると、先輩方は、行事でも部活動でも目標に向かってひたむきに努力し、一生懸命前に進み続けていました。私たちは、先輩方から、最上級生として在るべき姿や、協力し努力しながら一つの物事に取り組むことの大切さを学ばせていただきました。先輩方の行動の一つ一つは私たちが成長するためのメッセージであったと思います。私たち在校生は先輩方の姿を目標とし、勉強や行事、部活動に頑張っていきます。先輩方、かけがえのない時間を本当にありがとうございました。

先輩方と過ごす時間は今日が最後になります。明日から先輩方がいなくなるのは寂しく不安ですが、先輩方が築き上げてきた伝統は私たち在校生がしっかり受け継いで行きます。今は頼りない私たちですが、先輩方から学んだ多くのことを胸に、この津幡中学校を明るい挨拶の飛び交う、素晴らしい学校にします。

この三年間ともに学び、ともに笑い、困難も一緒に乗り越え、培ってきた絆や思い出は、先輩方一人一人にとって、かけがえのないものとなっていることでしょう。先輩方はこれからそれぞれの道へと進まれますが、どうか、津幡中学校で築き上げた仲間をずっと大切にしてください。そして、津幡中学校で過ごした日々を力に、輝かしい未来を切り拓いていってください。

最後になりましたが、先輩方の今後のご活躍を心よりお祈りして、在校生代表のあいさつとさせていただきます。

令和六年 三月九日 在校生代表 中農 仁美